

# 雲南市宇治西Ⅲ遺跡横穴墓出土の古墳人骨

松下孝幸・松下真実

## はじめに

島根県雲南市加茂町三代<sup>みじろ</sup>1662-6に所在した宇治西Ⅲ遺跡<sup>うじんざい</sup>横穴墓が2021年（令和3年）4月27日に松江自動車道加茂スマートインターチェンジ工事中に発見され、同年6月24日から7月5日まで発掘調査がおこなわれた。発掘調査によって玄室から副葬品とともに人骨が検出された。横穴墓が複数存在することが予想されたので、周辺の調査がおこなわれたが、この1基以外には発見されなかった。発見されたときはすでに天井を失っていたが、床面は前庭部から玄室まで残っており、玄室から須恵器蓋坏、甗、壺、平瓶、大刀（長さ約93cm、幅約3cm）、鉄鎌など19点の副葬品と人骨が検出された。特筆すべきは鞘の先端部分の金具と鏝に銀象嵌が施されていたことである。銀象嵌が施されていたのは、柄縁責金具、鏝、鏝、鞘知り金具である（雲南市教育委員会、宇治西Ⅲ、2025）。島根県内での銀象嵌の大刀の発見は16例目であるが、雲南市では本例が初例である。

宇治西Ⅰ遺跡と宇治西Ⅱ遺跡は、2017年度（平成29年度）の試掘調査で確認された遺跡で、斐伊川本流と赤川の合流地点付近に流れ出る奥田川を2kmほど遡った標高60mほどの丘陵地の南斜面に位置している。丘陵は東から西へ延びており、その中央部に宇治西Ⅰ遺跡があり、その西200mの丘陵先端部に宇治西Ⅱ遺跡が存在する。宇治西Ⅲ遺跡は宇治西Ⅰから東へ130mの地点で、標高80mのところを確認された（雲南市教育委員会、宇治西Ⅲ、2025）。

宇治西Ⅰ遺跡からは、掘立柱建物跡や土師器甕・坏・高台付坏・須恵器坏などが出土しており、奈良時代から平安時代初めの遺構、遺物と考えられている。宇治西Ⅱ遺跡からは掘立柱建物跡3棟、壁溝4本、焼成土坑2基、土器溜まりなどが検出されており、これらは奈良時代から平安時代初めの遺構、遺物とみられる。なお、遺構外から銅製巡方とその裏金具が出土しており、掘立柱建物の居住者に官人がいたことが想定される。

宇治西Ⅲ遺跡の横穴墓は、全長6.5mで、玄室・羨道・前庭部からなる。玄室は平面形が縦長長方形、隅部はやや丸みを帯び、羨道が前壁の中央に接続する両袖式である。羨道の長さは1.5m、幅0.7m、奥壁幅は1.2mである。遺物は玄室と羨道部から検出されている。人骨は玄室西側壁よりからまとまって発見されている。人骨のそばから大刀や提瓶、甗、蓋坏が検出されている。頭位は南と推測されている（雲南市教育委員会、宇治西Ⅲ、2025）。なお、本横穴墓は古墳時代終末期（7世紀前半）に築造されたと推測されている。

島根県から出土した古墳人骨については、筆者らが鑑定した古墳人骨は出雲市の浅柄北古墳人骨（松下・他、2009）のみなので、島根県内での地域差を含めた形質人類学的な特徴は把握していないが、本県の横穴墓からは多数の古墳人骨が出土しており、今後研究が進めば、島根県の特徴や西日本での地域差および系譜などが明らかになるとと思われる。

宇治西Ⅲ横穴墓出土の古墳人骨の残存量は少なく、保存状態もよくなかったが、人類学的観察や計測などをおこなったので、その結果を報告しておきたい。

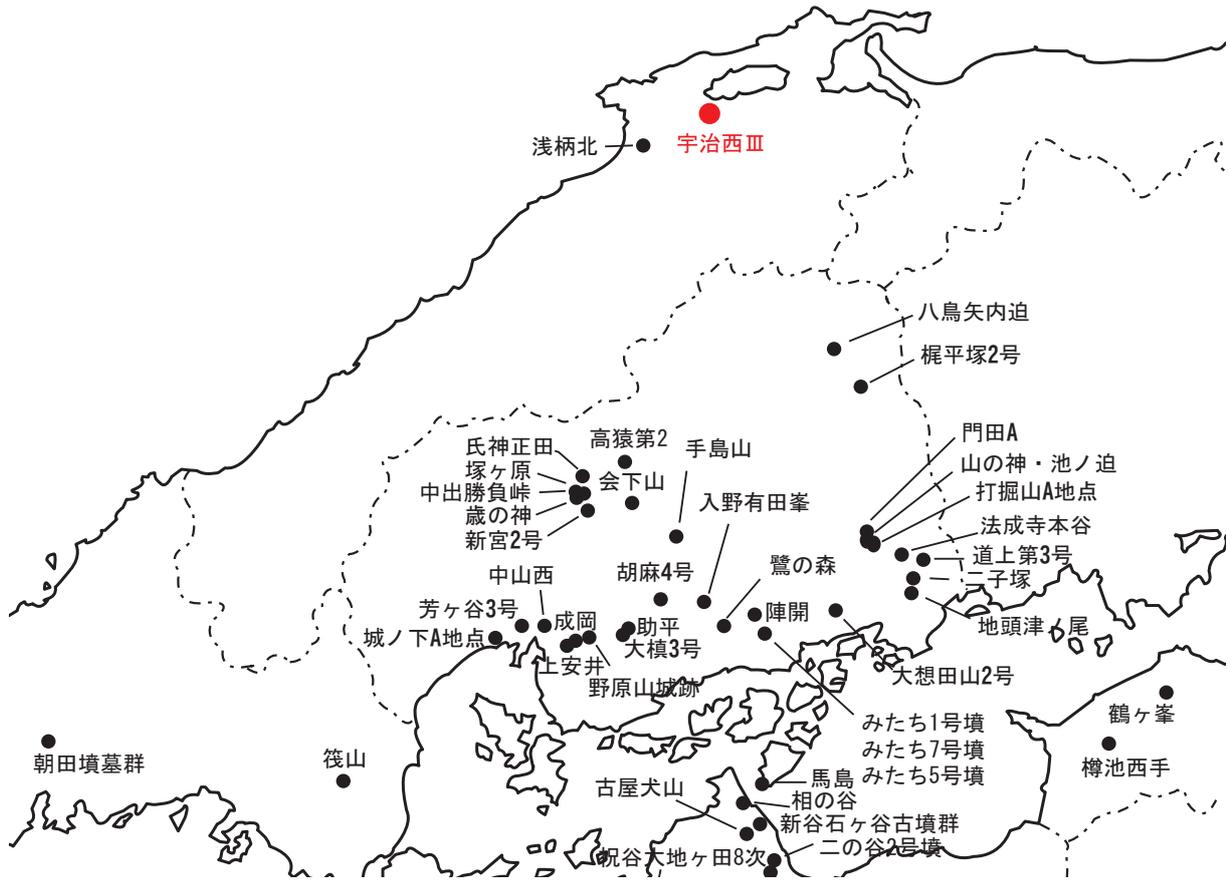


図1 遺跡の位置

## 1. 資料

宇治西Ⅲ横穴墓から検出された人骨は1体分である。本人骨は成年の男性骨と推測される（表1, 2）。なお、年齢区分に関しては表3のとおりである。

本古墳人骨は、考古学的所見より、古墳時代終末期（7世紀前半）に属する人骨である。

計測方法は、Martin-Saller（1957）によった。なお、人骨所見を記載するにあたり、本人骨の識別番号を「1号人骨（SK-1）」として、記載することにした。

表1 資料数（Table 1. Number of materials）

成人			幼小児	合計
男性	女性	不明		
1	0	0	0	1

表2 出土人骨一覧（Table 2. List of skeletons）

人骨番号	性別	年齢	備考（頭位）
宇治西Ⅲ 1号人骨（SK-1）	男性	成年	南頭位

表3 年齢区分（Table 3. Division of age）

年齢区分	年齢
未成人	乳児 1歳未満
	幼児 1歳～5歳（第一大臼歯萌出直前まで）
	小児 6歳～15歳（第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで）
	成年 16歳～20歳（蝶後頭軟骨結合癒合まで）
成人	壮年 21歳～39歳（40歳未満）
	熟年 40歳～59歳（60歳未満）
	老年 60歳以上

注）成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書（松下、1996）を参照されたい。

## 2. 所見

### I 人骨の検出状況と埋葬姿勢

現場で実見していないので、検出されたとき人骨が埋葬状態を保っていたのか、を現場で検証することができなかった。実測図をみると、骨の残存範囲が狭く、伸展葬で埋葬された状態を示しているとは考えにくい。おそらく攪乱を受けているものと思われる。その際、頭蓋や大腿骨を失ったか、あるいは攪乱を受けたことによって、保存状態が悪くなり、骨が残存しなかった可能性がある。また、実測図をみても骨の種別が判然とせず、一部の骨の同定に苦慮した。埋葬姿勢が伸展葬なのか、屈葬なのか、または攪乱を受けているのか、片付けられた痕跡が認められるか、などは現場でしか確認できないきわめて重要な情報であるが、今回は現場で実見していないので、これらは不明である。下顎骨が玄門側から検出されていることから、頭位は南であった可能性が強い。

## II 人骨の形質

各骨の残存部は図2に示すとおりである。また、各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

### 1号人骨（SK-1）（男性、成年）

取り上げられていた人骨をクリーニングし、精査したところ、下顎骨、鎖骨、橈骨、尺骨、寛骨、仙骨、膝蓋骨、脛骨、肋骨、椎骨などを同定することができたが、下顎骨を除く頭蓋、上顎歯、上腕骨、大腿骨および腓骨を認めることができなかった。

#### (1) 頭蓋

##### ①下顎骨

残存骨の中では比較的保存状態が良好であるが、骨はかなり脆い。両側の下顎頭と筋突起は欠損している。下顎底も欠失している。下顎枝の幅は広い。下顎骨はそれほど大きくはなかったようである。

#### (2) 歯

下顎骨には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

⑧ 7 6 5 4 ③ 2 1 | ① 2 3 4 5 6 7 8 [○：歯槽開存、番号は歯種]

[1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯]

咬耗度は Broca の1度（咬耗がエナメル質のみ）～2度（咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ）（第一大臼歯のみが2度）である。なお、左側第三大臼歯は完全には萌出していない。また、第二大臼歯と第三大臼歯の歯根はともにまだ完成していない。

#### (3) 四肢骨

##### 1) 上肢骨

鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

##### ①鎖骨

右側が残存していた。保存状態は悪く、脆い。骨体は細い。

##### ②橈骨

左側の骨体遠位部が残存していた。保存状態はきわめて悪い。

##### ③尺骨

両側の骨体が残存していた。骨体は大きく、骨間縁の発達はきわめて良好である。

##### 2) 下肢骨

寛骨、膝蓋骨、脛骨が残存していた。

##### ①寛骨

両側の腸骨体の一部が残存していた。保存状態はかなり悪く、脆い。左側の大坐骨切痕部が残存していたが、残りが十分ではなく、その角度は明確ではない。耳状面前溝の観察もできない。

##### ②膝蓋骨

左側が残存していた。ほぼ完形である。径はやや大きい。

##### ②脛骨

太い骨体が残存していた。その大きさは一般的な普通サイズの上腕骨、大腿骨、脛骨よりも太い。形態から大腿骨ではない。太い上腕骨か脛骨の可能性もある。残存部分が長さ約12cmしかなく、ひと目で骨種を判別できない。前面に片寄った膨らみがみられ、同定を困難にしている。その膨らみが三角筋粗面に繋がるものかと思ったが、確証がない。どちらかと言えば左側の脛骨体遠位部に近いようでもある。骨体の最小周を計測すると82mmもあり、上腕骨にしては大きすぎるので、脛骨

と同定した。残存していたのは左側脛骨体の遠位部とみられるかなり太い骨体である。大腿骨の可能性はないので、脛骨と同定したが、骨体の太さには違和感がある。最小周は81mm（左）もあり、計測値は著しく大きく、骨体はかなり太い。

#### (4) その他の骨

環椎と遺存度が良好な胸椎1個が残存していた。そのほか頸椎数点と肋骨片数点が残存しており、左側踵骨の一部も同定することができた。

#### (5) 性別・年齢

尺骨と脛骨の径が大きいことから、性別を男性と推定した。下顎の第二大臼歯と第三大臼歯の歯根がともに未完成で、根尖部分がまだ完成していない。第二大臼歯の歯根は16歳までには完成するが、四肢骨が大きいことから15歳程度とは考えにくく、歯根形成に関して、成長遅延があったかもしれない。第三大臼歯は萌出しているが、まだ完全に萌出しきれていないこと、第三大臼歯の歯根の先端部がまだ形成されていないことを考慮して、年齢を20歳前の成年としておきたい。

### 3. 要 約

島根県雲南市加茂町三代<sup>みじろ</sup>1662-6に所在した宇治西<sup>うじんざい</sup>Ⅲ遺跡横穴墓が松江自動車道加茂スマートインターチェンジ工事中に発見され、発掘調査がおこなわれた。玄室には須恵器蓋坏、甗、壺、平瓶、大刀、鉄鏃など19点の副葬品と人骨が残っていた。人骨の保存状態は良好なものではなかったが、人類学的観察と計測をおこない、以下の結果を得た。

1. 検出された人骨は1体のみであった。人骨は埋葬状態を保っていなかった可能性が強い。従って、埋葬姿勢は不明である。頭位は南と思われる。
2. 第二大臼歯と第三大臼歯の歯根がまだ完成していないことから、この被葬者は20歳前の成年と思われる。
3. この人骨は、考古学的所見から、古墳時代終末期（7世紀前半）に属する人骨である。
4. 残存していたのは、下顎骨、鎖骨、橈骨、尺骨、寛骨、仙骨、膝蓋骨、脛骨、肋骨、椎骨などであるが、残存骨の中には下顎骨を除く頭蓋と上顎歯、上腕骨、大腿骨、腓骨は認められなかった。
5. 人骨の保存状態はかなり悪く、骨質は脆弱で、触ると崩れてしまう程度の保存状態である。その中で比較的原形を留めていたのが、下顎骨、尺骨、寛骨、膝蓋骨、環椎、胸椎である。
6. 尺骨体の径はやや大きく、骨間縁の発達も良好である。脛骨体遠位部と思われる骨はかなり太く、被葬者は上肢骨と下肢骨が大きく、屈強な男性だったと推測される。脛骨の最小周は81mm（左）であるが、最小周が80mmを超える古墳人としては、熊本県の飛田CZ3-1号人骨が82mm（左）（松下真実・他、2016）、同県の北岡横穴群14-Y-02が82mm（右）（松下、2013）、同県の小路古墳人の80mm（右）（松下、1985）がある程度で、数はきわめて少ない。
7. 本横穴墓からは1体の人骨が検出された。追葬の痕跡はないとのことであるが、人骨は埋葬状態を保っていない。後世に攪乱されたようである。特筆すべきは銀象嵌大刀が副葬されていたことである。このような希有な威信財を副葬された被葬者は、人骨から骨太の若い男性であることがわかった。発育遅延を思わせる第二大臼歯の歯根がまだ完成していないことと、骨からはきわめて健康そうな若者の夭逝とが関係あるのかは不明であるが、いずれにせよ将来を嘱望されていた若者は、不幸なことに若くして生涯を終えたようである。

## 謝辞

掲筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた雲南市教育委員会の皆様に感謝いたします。

## 《参考文献》

1. 池田次郎・他、1984：広島県氏神正田遺跡出土の古墳時代人骨について。広島県山県郡千代田町氏神正田遺跡発掘調査報告：13-18.
2. Martin-Saller, 1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fisher Verlag, Stuttgart：429-597.
3. 松下真実・他、2013a：熊本市北岡横穴群出土の古墳人骨（2）。北岡横穴群（熊本県文化財調査報告第290集）：178-184.
4. 松下真実・他、2013b：熊本市北岡横穴群出土の古墳人骨（3）。北岡横穴群（熊本県文化財調査報告第290集）：185-190.
5. 松下真実・他、2016：飛田遺跡群（2区）出土の古墳人骨。飛田遺跡群2（熊本県文化財調査報告第318集）：146-165.
6. 松下真実・他、2023：岡山県新庄村中ノ谷横穴墓出土の古墳人骨。中ノ谷横穴墓（新庄村埋蔵文化財発掘調査報告）19-34.
7. 松下真実・他、2024：地頭分津ノ尾第2号古墳出土の古墳人骨。地頭分津ノ尾遺跡・地頭分津ノ尾第2～5号古墳（公益財団法人広島県教育事業団発掘調査報告書第91集）：89-112.
8. 松下真実・他、2025：広島県安芸高田市高猿第2号古墳出土の古墳人骨。高猿第2号古墳（公益財団法人広島県教育事業団発掘調査報告書第95集）：29-45.
9. 松下孝幸、1982：山口県朝田墳墓群第Ⅱ地区出土の人骨。朝田墳墓群Ⅴ（山口県埋蔵文化財調査報告64）：179-206.
10. 松下孝幸・他、1983a：山口県山口市朝田墳墓群第Ⅱ地区出土の人骨－総括篇－。朝田墳墓群Ⅵ（山口県埋蔵文化財調査報告69）：219-242.
11. 松下孝幸・他、1983b：山口県豊浦郡豊北町土井ヶ浜遺跡出土の人骨。土井ヶ浜遺跡第7次発掘調査概報（豊北町埋蔵文化財調査報告2）：19-30.
12. 松下孝幸、1984：広島市芳ヶ谷3号墳出土の古墳時代人骨。広島市安佐南区祇園町所在広島経済大学構内遺跡群 発掘調査報告（広島市の文化財第30集）：61-68.
13. 松下孝幸、1985：玉名市小路石棺出土の古墳時代人骨。滑石小路箱式石棺・本堂山遺跡（玉名市文化財調査報告第6集）：32-48,57-61.
14. 松下孝幸・他、1986a：歳ノ神遺跡群出土の弥生・古墳時代人骨。歳ノ神遺跡群・中出勝負峠墳墓群（広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第49集）：201-212.
15. 松下孝幸・他、1986b：中出勝負峠墳墓群出土の弥生・古墳時代人骨。歳ノ神遺跡群・中出勝負峠墳墓群（広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第49集）：213-244.
16. 松下孝幸・他、1986c：山口県豊浦町汐汲遺跡出土の古墳時代・中世人骨。汐汲遺跡（豊浦町埋蔵文化財調査報告第7集）：75-102.
17. 松下孝幸・他、1990：広島県西城町八鳥矢内迫横穴墓群出土の古墳時代人骨。西城町教育委員会文化財報告書第2集：33-65.
18. 松下孝幸、1993：広島県本郷町陣開遺跡出土の古墳時代人骨。陣開遺跡（本郷町教育委員会文化財調査報告書第2集）付編：1-5.
19. 松下孝幸、1996a：山口県菊川町風呂ヶ迫横穴墓群出土の古墳時代人骨。風呂ヶ迫横穴墓群発掘調査報告（菊川町埋蔵文化財調査報告第4集）：21-28.
20. 松下孝幸、1996b：土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査出土の中世・弥生時代人骨。土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書（山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第12集）：24-50.
21. 松下孝幸、1997：広島県東城町梶平塚第2号墳出土の古墳時代人骨。梶平塚第2号墳発掘調査報告書（広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第150集）：53-60.
22. 松下孝幸、1998：広島県府中市山の神・池ノ迫遺跡群出土の弥生・古墳時代人骨。山の神・池ノ迫遺跡群（広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第165集）：75-105.
23. 松下孝幸、2000：広島県八千代町新宮第2古墳出土の人骨。新宮遺跡群発掘調査報告書（八千代町埋蔵文化財調査報告書第1集）：95-108.
24. 松下孝幸、2001a：広島県海田町上安井古墳出土の人骨。上安井古墳発掘調査報告書（広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第191集）：36-40.

25. 松下孝幸、2001b：広島市成岡第2号古墳出土の人骨。成岡A地点遺跡（（財）広島市文化財団発掘調査報告書第6集）：71-83.
26. 松下孝幸、2003：山口県玖珂町筏山古墳出土の古墳人骨－山口考古第23号：13-26.
27. 松下孝幸、2004a：広島県神辺町門前2号遺跡・道上第3号古墳出土の弥生・古墳人骨。道上2・3・5号古墳、門前2号遺跡（財団法人広島県教育事業団発掘調査報告書第6集）：113-119.
28. 松下孝幸、2004b：山口県長門市椽塚横穴墓出土の古墳人骨。山口考古第24号：19-30.
29. 松下孝幸、2005：長門市西ノ木古墳出土の人骨。山口考古第25号：25-40.
30. 松下孝幸・他、2009：出雲市浅柄北古墳出土の人骨。御崎谷遺跡 間谷東遺跡 浅柄北古墳間谷西II遺跡 間谷西古墳（一般県道出雲インター線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ）：195-210.
31. 松下孝幸・他、2013：熊本市北岡横穴群出土の古墳人骨。北岡横穴群（熊本県文化財調査報告第290集）：169-177.
32. 雲南市教育委員会、2025：宇治西Ⅲ遺跡（雲南市埋蔵文化財調査報告書12）

表4 下顎骨 (mm、度) (Mandibula)

		宇治西Ⅲ 1号人骨 男性
65	下顎関節突起幅	—
65(1).	下顎筋突起幅	—
66	下顎角幅	—
67	前下顎幅	—
68	下顎長	—
68(1).	下顎長	—
69	オトガイ高	—
69(1).	下顎体高(右)	—
	(左)	—
69(2).	下顎体高(右)	—
	(左)	—
70	枝高(右)	—
	(左)	—
70(1).	前枝高(右)	—
	(左)	—
70(2).	最小枝高(右)	—
	(左)	(56)
70(3).	下顎切痕高(右)	—
	(左)	—
71(1).	下顎切痕幅(右)	—
	(左)	—
71	枝幅(右)	—
	(左)	—
71a.	最小枝幅(右)	—
	(左)	36
79	下顎枝角(右)	—
	(左)	—
66/65	下顎幅示数	—
68/65	幅長示数	—
68(1)/65	幅長示数(右)	—
69(2)/69	下顎高示数(右)	—
	(左)	—
71/70	下顎枝示数(右)	—
	(左)	—
71a/70(2)	下顎枝示数(右)	—
	(左)	—
70(3)/71(1)	下顎切痕示数(右)	—
	(左)	—

( )：推定値

表5 尺骨 (mm) (Ulna)

		宇治西Ⅲ 1号人骨 男性
1.	最大長	(右) — (左) —
2.	機能長	(右) — (左) —
2(1).	肘頭尺骨頭長	(右) — (左) —
3.	最小周	(右) — (左) —
6.	肘頭幅	(右) — (左) —
6(1).	上幅	(右) — (左) —
7.	肘頭深	(右) — (左) —
8.	肘頭高	(右) — (左) —
11.	尺骨矢状径	(右) 16 (左) —
12.	尺骨横径	(右) 19 (左) —
S	中央最小径	(右) 16 (左) —
L	中央最大径	(右) 19 (左) —
C	中央周	(右) 56 (左) —
3/2	長厚示数	(右) — (左) —
11/12	骨体断面示数	(右) 84.21 (左) —
S/L	中央断面示数	(右) 84.21 (左) —

表6 脛骨 (mm) (Tibia)

		宇治西川 1号人骨 男性	
1.	脛骨全長	(右)	-
		(左)	-
1 a.	脛骨最大長	(右)	-
		(左)	-
1 b.	脛骨長	(右)	-
		(左)	-
2.	顆距間距離	(右)	-
		(左)	-
3.	最大上端幅	(右)	-
		(左)	-
3 a.	上内関節面幅	(右)	-
		(左)	-
3 b.	上外関節面幅	(右)	-
		(左)	-
4 a.	上内関節面深	(右)	-
		(左)	-
4 b.	上外関節面深	(右)	-
		(左)	-
6.	最大下端幅	(右)	-
		(左)	-
7.	下端矢状径	(右)	-
		(左)	-
8.	中央最大径	(右)	-
		(左)	-
8 a.	栄養孔位最大径	(右)	-
		(左)	-
9.	中央横径	(右)	-
		(左)	-
9 a.	栄養孔位横径	(右)	-
		(左)	-
10.	骨体周	(右)	-
		(左)	-
10 a.	栄養孔位周	(右)	-
		(左)	-
10 b.	最小周	(右)	-
		(左)	81
9/8.	中央断面示数	(右)	-
		(左)	-
9 a / 8 a	栄養孔位断面示数	(右)	-
		(左)	-
10 b / 1	長厚示数	(右)	-
		(左)	-

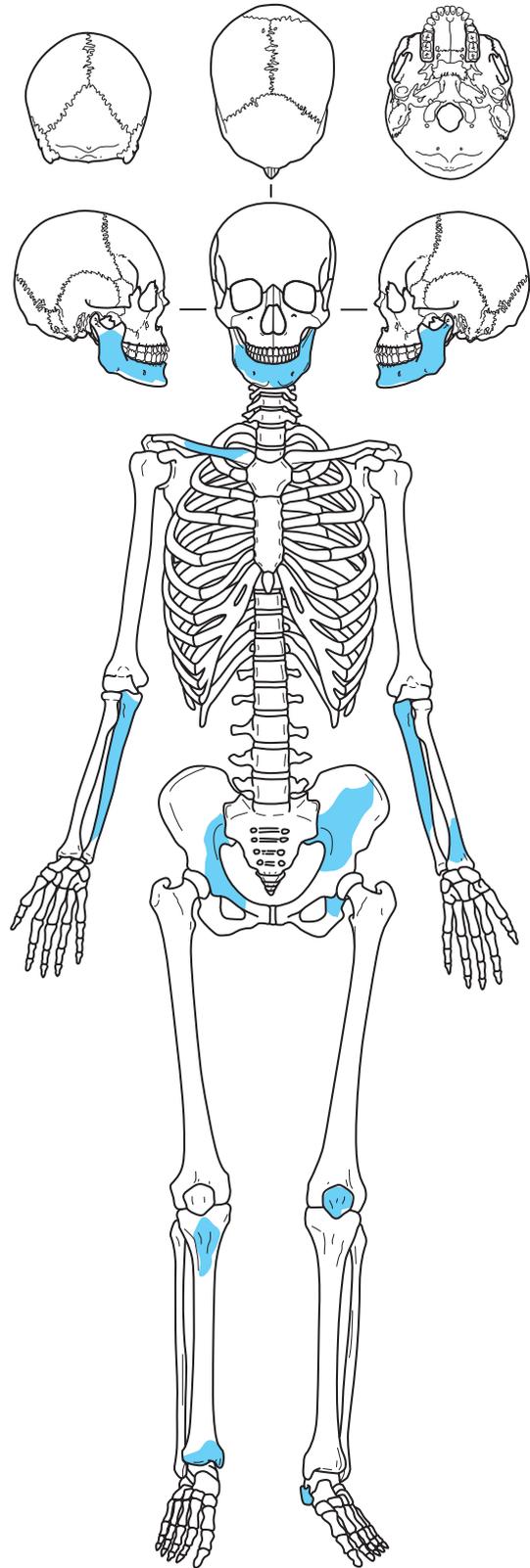


図2 人骨の残存図

表7 膝蓋骨 (男性) (Patella)

		宇治西川 1号人骨 男性	
1.	最大高	(右)	-
		(左)	-
2.	最大幅	(右)	-
		(左)	-
3.	最大厚	(右)	-
		(左)	18
4.	関節面高	(右)	-
		(左)	(30)
5.	内関節面幅	(右)	-
		(左)	21
6.	外関節面幅	(右)	-
		(左)	23
1/2	膝蓋骨高幅示数	(右)	-
		(左)	-



下顎骨正面 (Frontal view of the mandible)



下顎骨側面 (Lateral view of the mandible)



下顎骨上面 (Superior view of the mandible)

宇治西Ⅲ 1号人骨 (男性・成年)  
(The skeleton No.1 from the Uzinai Ⅲ site, adolescent male)



上肢骨 (Bones of the upper limb)

下肢骨 (Bones of the lower limb)

宇治西Ⅲ 1号人骨 (男性・成年)  
 (The skeleton No.1 from the Uzinai Ⅲ site, adolescent male)



寛骨 (The Pelvis)

椎骨 (The vertebrae)

宇治西Ⅲ 1号人骨 (男性・成年)  
 (The skeleton No.1 from the Uzinai Ⅲ site, adolescent male)